



魔法のプレゼンテーション



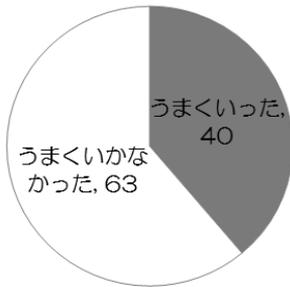
目次

- 1.はじめに・・・ページ1
- 2.目標設定・・・ページ3
- 3.スライドの作り方・・・ページ5
- 4.発表に向けて・・・ページ13
- 付録①・・・ページ18
- 5.本番・・・ページ19
- もしも・・・ページ20
- 付録②・・・ページ21
- 付録③・・・ページ22
- 参考文献・・・ページ23
- 編集後記・・・ページ24

1.はじめに

大学生になると、研究成果などをプレゼンテーションをする機会があったらう。そのとき皆さんは満足いくプレゼンテーションが出来ていたのだろうか？そこで私たちは、プレゼンテーションに対する意識調査を103人(1年生43人、2年生60人)の学生に行った。

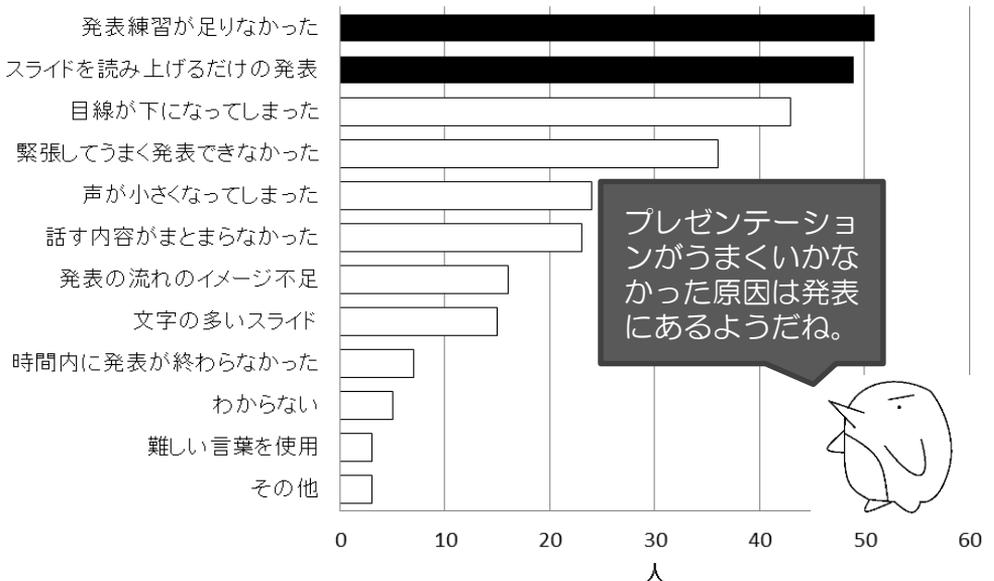
Q1 最近行ったプレゼンテーションはどうでしたか？



うまくいかなかった人が多数を占めている。



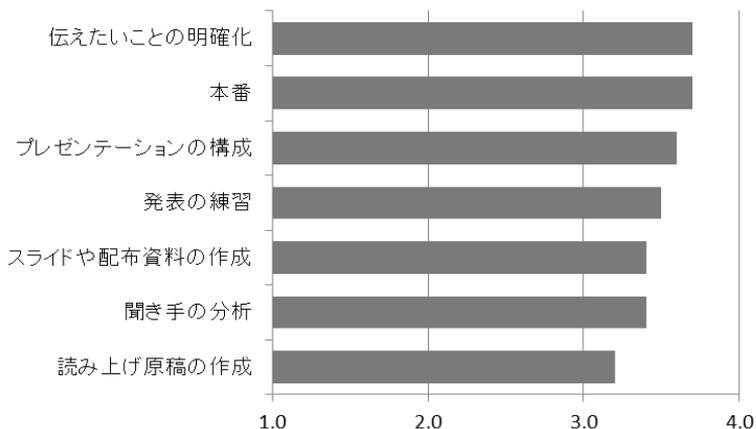
Q2 うまくいかなかった人の反省点(複数回答可)



プレゼンテーションがうまくいかなかった原因は発表にあるようだね。



Q3 プレゼンテーションで重要だと思っていること



Q3は各項目を1～4の番号（④. とても重要 ③. 少し重要 ②. あまり重要でない ①. 重要でない）で選んでもらい、距離尺度とみなして、平均値を求めた。プレゼンテーションがうまくいかなかったと思っている人は、本番を重要視している。しかし今回のアンケートから、「スライドや配布資料の作成」、「聞き手の分析」、「読み上げ原稿の作成」といった準備を比較的重要視していないため、本番もうまくいかなかったのではないかと考察される。

そこで私たちは、この冊子でスライドの作成から本番までの道のりを説明していこうと思う。



2.目標設定



さて、プレゼンテーションを作るにあたって最初にテーマと目標を決める必要がある。本誌では大根おろしをテーマにプレゼンテーションの作成を進めていくこととする。

【テーマ】

大根おろし

【目標】

プレゼンテーションを終了した時点での目標を設定する。
目標によりプレゼンテーションの進め方は変化する。

例①：毎日大根おろしを食べたいと思わせる

→大根おろしと言えば、料理のわき役というイメージがあり、主役になるには難しい食材であるが、大根おろしの様々な魅力を紹介し、毎日食べたいと聴衆に思ってもらいたい。

例②：興味をもってもらおう

→大根おろしがテーマだと言っても、興味がある人は少ないだろう。プレゼンテーションを聞いている間だけではなく、その後も聴衆の記憶に残るように写真と短いメッセージを効果的に活用したプレゼンテーションを行う。

大根おろしというテーマから上記2つの目標が考えられるが、勝手に目標を設定してはいけない。聴衆の現状を把握する聴衆分析を行ってから目標を設定する必要がある。

聴衆分析

目標を設定するにあたり、どのようなプレゼンテーションを目指すのか考えなければならない。そこで重要なのは、聞き手や環境などについて下調べすることだ。

1、環境の確認	
人数	20人（男性10、女性10）
年齢層	18～22歳 学生
会場の広さ	208教室
2、聞き手の分析	
知識量	日常的に食べることはあるが、詳しくは知らない
テーマに関する意見	大好き、好き、普通、嫌い、食べられない
話し手との関係・印象	面識はあるものの、親しくはない
3、聞き手の関心	
興味・関心・問題	興味なし

聴衆分析をした結果、大根おろしについての知識はほとんどなく、関心もあまりない。今回は詳しく専門的な内容ではなく、少しでも興味を持ってもらえるような内容のプレゼンテーション目指すべきだ。

本誌では例②興味を持ってもらうを目標に掲げ進めていくとする。



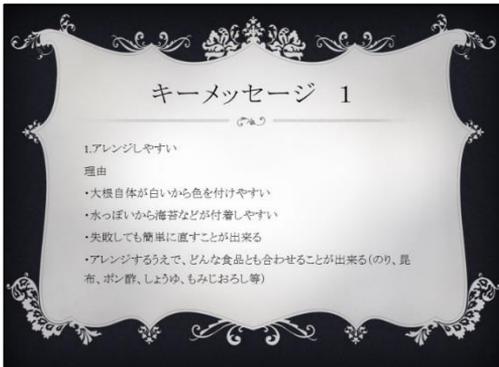
3.スライドの作り方



こういうスライドありませんか？



文章がぎっしりで読むのをためらってしまうようなスライド。重要な語句を探すことにも、時間がかかってしまうし、探している間は、プレゼンターの話も頭の中に入っていない！



箇条書きでポイントが何点も連なっているスライド。結局どれが大切なのか、一番述べたいのかが伝わらない。このようなスライドが何枚も続けば次第に飽きてきてしまう。



適切さに欠けるクリップアートを用いたスライド。話の内容とマッチしていないために、場面や実物を上手くイメージできない。

では、良いスライドにはどのようなポイントが含まれているのだろうか

伝えたいことが
明確になっている



文字と背景に
差異がある

写真を大きく使
い余白をうまく
使っている

次のページからは、スライドの作り方について、具体的に説明していこう。



3-1 手書きでの作成



スライドを作成するときは、いきなりパソコンでスライドを作成するのではなく、まず紙とペンを用意しよう。だいたいのスライドイメージを書きアイデアをまとめていく。ではこのような手順で作成すると、どのようなメリットがあるのだろうか。

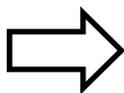
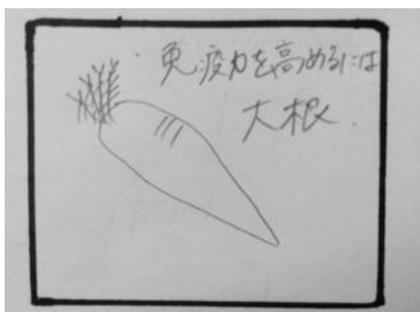
【パソコンで作るデメリット】

- ①プレゼンテーションの全体像をつかみにくい
- ②箇条書きばかり
- ③余計なスライドばかりになる
- ④準備に時間がかかる

【紙で作るメリット】

- ①プレゼンテーションの全体像をつかみやすい
- ②箇条書きをさけることができる
- ③余計なスライドを減らせる
- ④作成時間を短縮することができる

イメージをまとめるための準備であるため、ていねいに書く必要はない。



21ページの付録②を活用しよう。

次のページで、伝わりやすいスライド作成の要点を紹介する。



3-2 メッセージ設定

各スライドで明確なメッセージを伝えるためにはヘッドラインやキーメッセージといったものを、はじめに考えておく必要がある。

ヘッドライン

キャッチコピー、見出し、タイトルのこと。

プレゼンテーションを作成するとき、まずヘッドラインを明確にする。そしてヘッドラインを核として作成していく。そうすることで、一貫したメッセージを発信することができる。

また、発表時に繰り返し用いて記憶に残るようにする。

〈ヘッドライン作成のポイント〉

①簡潔である②具体的である③印象に残るものである

キーメッセージ

本当に伝えたいこと。主要メッセージのこと。

ヘッドラインをもとに、何を伝えたいのかを、いくつかリストアップしていく。項目ごとにまとめるなど整理する。その中から、3つくらいにキーメッセージを絞り、それぞれに説明を加える。理由や体験談を含めると良い。

今回はテーマが「大根おろし」というわけで

ヘッドラインを、脇役から主役へ

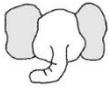
キーメッセージを アレンジしやすい、

おろす動作でトレーニング、

周りの食材を従えるリーダーシップ

の3つとして進めていくとする。

さて、次は効果的な画像やグラフの使い方について考えていこう。



3-3 画像の方が記憶に残る



大根おろしで筋肉がつく！

大根をおろした経験は、日本人なら一度はあると思います。
大根をおろしたあと、腕の筋肉が、びくびくしたという経験はありませんか？

それは、腕に筋肉がつこうとしている証拠です！

そして、大根には、筋肉の炎症を抑える効果があります。

ということは、大根を大根おろしで削し、その削した大根を食べることで、

筋肉痛になることもなく、ずっと筋肉を鍛えることができるのです！

筋肉がつく+おいしいごはんが食べれる+筋肉の炎症を抑えられる=大根おろし

大根おろしを食べないで、他になにを食べるのでしょうか。
筋肉をつけたいのなら、大根おろしを食べましょう！！

白い背景に黒い文字をズラズラ書いても、読みづらく単調であるため記憶に残りづらい。

画像は記憶を助ける道具としても、非常に効果的であり、メッセージを強く印象づけてくれる。

だが、画像であればなんでも良いというわけではない。

画像を選ぶときは

- ・論点が明確に伝わってくる画像
- ・文字が収まるスペースのある画像であるかを気にしよう。

クリップアートでは視覚的にインパクトが弱く、記憶に残りづらい。

では、クリップアートを写真に変えてみよう。



大根おろしで
筋肉がつく！

写真によって、伝えたいメッセージをいち早く理解することができるようになった。だが、まだ視覚的にインパクトが弱いスライドになっている。

次は、写真を大きくしてみよう。

大根おろしで
筋肉がつく！





枠外にまではみ出した写真を使うことで、面白みがあり、ダイナミックで、記憶に残りやすいスライドになる。

より一層、聴衆の記憶に残りやすいスライドを作るためには、差異と視線に気を付けよう。



背景が暗いなら文字を明るく、強調したい文字があるなら、その文字を大きくする。すると、差異が生まれ、ある一つの要素を際立たせたデザインを創ることができる。

人間や動物などの顔の画像をうまく利用することで、聴衆の視線を誘導させることができる。



顔が文字を向いている画像を使うことで、聴衆の視線は文字に向けられる。聴衆の視線を文字に誘導し、文字がすぐに目に入るようになる。

これらのポイントをおさえて、記憶に残りやすいスライドを作成しよう。



3-4 グラフ¹⁶

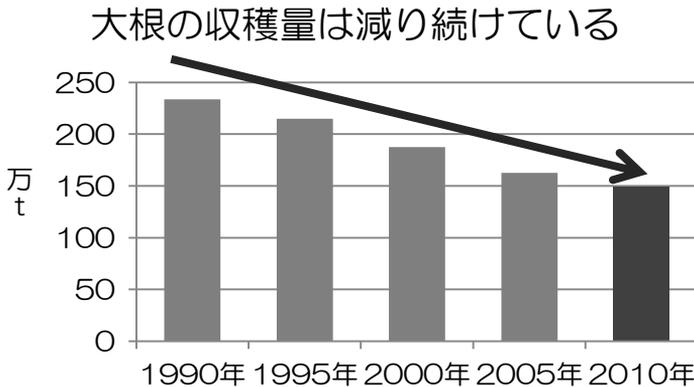
プレゼンテーションでのグラフの使い方

言葉だけでは説明することが難しいメッセージを示したいとき、グラフを使用すると良い。

グラフを作る際に大事なこと

- ①伝えたいメッセージを決める
 - ②メッセージに一番合う適切なグラフの形を選ぶ
 - ③強調したい部分以外は、シンプルなデザイン、色で作る
- グラフやタイトルを見て何を伝えたいのかがすぐにわかることが重要だ。

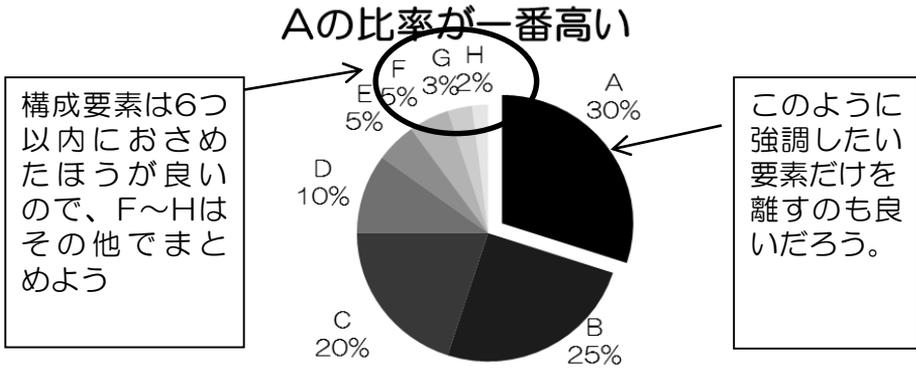
例えば「日本で大根の収穫量が減り続けている」というメッセージを設定しグラフを作成する。



タイトルを「日本での大根収穫量の推移」としても良いが、メッセージをそのまま使用した方がこのグラフを使って伝えたいことがわかりやすい。出来の悪いグラフは混乱を招いてしまう。決めたメッセージをもとに、シンプルでわかりやすいグラフを作ろう。ただし使いすぎには注意しよう。グラフはあくまで補足的な資料となるように作成する。

円グラフ

円グラフは全体の構成比を示すときに使う。



棒グラフ、折れ線グラフ

横棒グラフはそれぞれの項目を比較するときに使う。

縦棒グラフは7件までのデータの時系列による変化を比較するときに使う。

折れ線グラフは8件以上のデータの時系列による変化を比較するときに使う。

棒グラフや折れ線グラフを使うときはスケールの取り方にも注意しよう。

「今年大根おろしを食べた回数」をグラフに表した。

図1

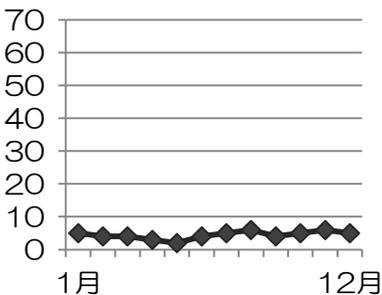


図2

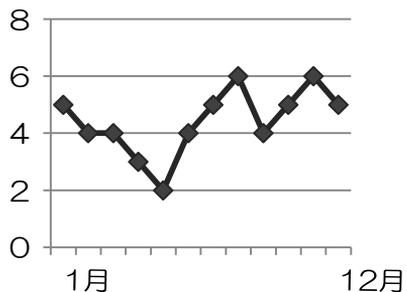


図1のグラフは、月によって食べた回数にほぼ差はないように見えるが、図2のグラフは大きな差があるように見える。スケールの取り方一つで、メッセージが真逆になるので用途によって使い分けよう。



4.発表に向けて



悪い発表の例

大根おろしの現状

大根おろしを何かにあわせはするが、大根おろしをメインにはしない。皆さんは普段、家でこのようなごはんを食べているのではないかと思います。さんまのとなりに大根おろしとすだち。主役のさんまの近くに脇役の大根おろしとすだちがある。これが大根おろしの現状です。だが、大根おろしは、脇役で黙っているような食材ではありません。そこで、今回のプレゼンテーションではみなさんに大根おろしについて興味を持ってもらい、大根おろしのいいところを知ってもらいたいと思っています。



画像の印象が薄い

文字ばかりでわかりづらい

大根おろしを何かにあわせはするが、大根おろしをメインにはしない。皆さんは普段、家でこのようなごはんを食べているのではないかと思います。さんまのとなりに大根おろしとすだち。主役のさんまの近くに脇役の大根おろしとすだちがある。これが大根おろしの現状です。だが、大根おろしは、脇役で黙っているような食材ではありません。そこで、今回のプレゼンテーションではみなさんに大根おろしについて興味を持ってもらい、大根おろしのいいところを知ってもらいたいと思っています。

スライドと同じ内容を言っている

下を向いて話している

原稿を読んでいる



良い発表の例



大根おろしは
主役ではない

見やすい文字の
大きさ

画像が大きく使わ
れている

大根おろしを何かにあわせはするが、大根おろしをメインにはしない
皆さんは普段、家でこのようなごはんを食べているのではないかと思います。
さんまのとなりに大根おろしとすだち。
主役のさんまの近くに脇役の大根おろしとすだちがある。
これが大根おろしの現状です。
ですが、大根おろしは、脇役で黙っているような食材ではありません。
そこで、今回のプレゼンテーションではみなさんに大根おろしについて興味を持ってもらい、大根おろしのいいところを知ってもらいたいと思っています。

前を見ている

実物を持つことで
聴衆の気を引く





4-1 読み上げ原稿



発表原稿を用意することで、空き時間を使って繰り返し練習をすることができるようになる。では、読み上げ原稿はどのように作ったらよいのだろうか。

発表原稿を作るときの10のポイント

1	聴衆に適した口調を考える
2	聴衆に適した話す速さと、持ち時間をもとに原稿の文字数を検討する
3	専門用語を多用しない
4	専門用語を用いる際は、説明を入れる
5	身近なトピックから話を始める
6	プレゼンテーション全体の流れをざっくりと述べ、聴衆にきく準備をしてもらう
7	スライドに入る前、スライドとスライドの合間は、次へ進むための導入を挟む
8	適度に間をとる
9	質問を投げかけるなど、聴衆の反応をうかがう箇所を作る
10	受けるであろう質問を予想しておきその回答も準備しておく

慣れてきたら文章ではなく、キーワードやトピックだけをメモして、本番に臨んでもよい。

次ページで、実際の発表原稿とスライドを見てみよう。

目標が『興味をもってもらおう』の場合はスライドの文字は少なくすべきだ。
その分、話の内容を充実させた方が良い。



お皿の上に大根おろしだけあってもさみしいのでさんまを置いていますよ的な感じで、大根おろしはお皿の上に置かれています。なので、大根おろしがメインであって、さんまはサブなんです。大根おろしにはたくさんのメインになるべき理由があります。その中でも今回、3つお伝えしようとおもいます。



まず、大根おろしはアレンジしやすいです。
今、巷では、大根おろしアートなるものが流行しています。鍋やお皿の上で、動物やキャラクターを大根おろしで作り、料理を楽しくしてくれます。例えば、このような大根おろしアートがたくさんあります。ポン酢で色をつけたり、のりなどで目をつけたりして、大根おろしアートをつくります。食卓にこんなかわいい料理があったら、食事が楽しくなりませんか？





4-2 練習

以下の点に気を付けて練習を繰り返すことで自信がつき、より効果的なプレゼンテーションをすることができるようになる。

声に出して練習しよう

声に出して練習することに抵抗や恥ずかしさを覚える人もいるだろう。

しかし、声に出して練習することこそがとても重要なのである。

声に出すことで不安は軽減され、緊張せずにプレゼンテーションを行うことができるようになる。

実際の会場で練習をしよう

機器操作や時間内に終わるかなど、基本的なミスがないようしっかり確認することが大切である。

スライドの文字が遠くからでも見えるか、自分の声がしっかり通るかなど、会場内を歩き回って確認するのもよい。

繰り返し練習しよう

何度も繰り返し練習をすることで、詰まることなくスラスラと話せるようになる。また、誰かに見てもらいながら練習することで、本番の環境により近づけて練習することができる。繰り返し練習するうえで、ぜひ試してみよう。



付録①チェックリスト

ここまでで紹介したポイントをふまえて、自分の発表に向けての最終確認をしておこう。

- 聴衆分析は行いましたか？
- 目標は立てましたか？
- アナログでスライドのイメージを作成しましたか？
- ヘッドラインをたて一貫した主張をしていますか？
- キーメッセージを設定しましたか？
- 図や写真の使い方は適切ですか？
- 文字は多すぎませんか？
- 発表原稿を作りましたか？
- 興味を持ってもらうために導入を工夫しましたか？
- わかりやすい言葉遣いですか？
- 繰り返し声に出して練習しましたか？
- 時間を計ってみましたか？
- 発表を誰かに一度は見てもらいましたか？
- 会場に足を運びましたか？



5.本番

残すは本番の発表のみ。ここでは本番の際の重要な点を3つ紹介しよう。

アイコンタクトをとろう

スライドやメモを読むプレゼンターが多いが、下を向いての発表では聴衆に伝わらない。聴衆とのアイコンタクトを避ける人は自信がないと感じられてしまう。だから顔を上げてアイコンタクトをとるよう心がけるべきだ。

身ぶり手ぶりを使ってうったえかけよう

発表の際、両手を体の両脇にたらすと緊張しているように見えてしまうが、身ぶり手ぶりを使うことで自信を持って話していることが伝わる。説得力のあるしゃべりができる。

話し方を工夫しよう

一本調子で話すのではなく、声に強弱や話に緩急をつけることで重要な部分を強調できる。特に聴衆に覚えて欲しいヘッドラインやキーメッセージは、ゆっくりとしたスピードで話すことで記憶に残させるなどしてみよう。

ここまで作ってきたスライドや原稿をもとに自信をもって本番に臨んでほしい。



もしも聴衆が大根おろしに興味を持っている方々の場合

プレゼンテーション内容に聞く前から興味のある人に話すとき

プレゼンテーション内容に興味があり、詳しいことを知りたいとおもっている人にプレゼンテーションをする場合は、スライドのなかに詳しい内容を書くとよい。

だが、文字をたくさん書くのではなく、相手が見やすいように、わかりやすくまとめることが大切である。

書類審査などがあるとき

企画案などの資料作りが疎かになってしまっただけでは、対面プレゼンテーションすらできない。

詳細な情報を盛り込んだ資料を作らなければならない。

そして、本番で緊張してしまってプレゼンテーションが上手にできなくても、資料があれば自分の言いたいことが相手に伝わる。

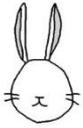
在学中だと

- ・ 卒論
- ・ 成果発表 など

で、このようなプレゼンテーションが有効である。

聴衆の関心度と知識に応じてプレゼンテーションの仕方を変えてみるのが大切だ。

プレゼンテーションの違いを見極めて正しく使い分けよう



付録②手書き de スライド○

手書きでスライドのイメージを書いてみよう。





付録③聴衆分析

聴衆分析をしてみよう！

1、環境の確認	
人数	
年齢層	
会場の広さ	
2、聞き手の分析	
知識量	
テーマに関する意見	
話し手との関係・印象	
3、聞き手の関心	
興味・関心・問題	

参考文献

カーマイン・ガロ（2010年） 『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン』 日経BP社.

シーン・ゼラズニー（2004年） 『マッキンゼー流 図解の技術』 東洋経済新報社.

ガー・レイノルズ（2009年） 『プレゼンテーションzen』 ピアソン桐原.

ジェリー・ワイズマン（2004年） 『パワープレゼンテーション』 ダイヤモンド社.

天野暢子（2008年） 『図解 話さず決める！プレゼン』 ダイヤモンド社.

平成25年度情報処理特講Ⅱb（2014年） 『プレゼンテーションハンドブック 大学で学ぶプレゼンテーションの基礎』 東北公益文科大学.

編集後記

この冊子を手にとって下さった方ありがとうございます。参考にはなりましたか？

私たちは、前期の講義において実際にどのようにプレゼンテーションをすれば良いのかそれぞれのテーマでスライドを作成し、発表を行いました。そしてその成功点や反省点を活かし、後期では公益大生の情報リテラシー、基礎プログラミングなどの成果発表の場において役立つようなマニュアルを作成することにしました。マニュアルを作成するにあたって、昨年度この講義で作成した、「プレゼンテーションマニュアル」という冊子を参考にしています。しかし、昨年度より親しみやすいものにしようと、見出しのアイコン・ページ毎の解説に、動物などを使用しました。しかも、全部マウスによる手描きですよ！！超上手！顔としっぽが対応していることにも注目してください。今までにこのような冊子を作る機会があまりなかったために、各ページに統一感を持たせること、流れを作ることなどに苦労しました。いい感じ！と思っていつも神田先生に痛いところを突かれ何度も練り直しました。一生懸命考えて作りましたのでぜひ活用してくださいね。

A close-up, warm-toned photograph of a dog's fur, likely a golden retriever, with a focus on the texture and color. The dog's ear is visible in the upper right corner, and the fur is a mix of golden and light brown hues.

平成26年度 情報処理特講Ⅱb

メンバー

石井 諒

伊藤聡美

岩渕晶斗

佐藤 菜

田口絢恵

田中早紀

渡辺雄基